



「強くやさしく」「やさしく強く」

学校長：武藤 浩之

令和2年度のことで。コロナ禍により、当たり前前の学校生活が、当たり前ではなくなったこの年。会場を小学校の講堂に変えて、更には学年ごとの入替で学習発表会を行ないました。そうした中、当時の6年生が見事に演じたのは「泣いた赤おに」です。

あれから5年。先日、ふと「泣いた赤おに」を思い出しました。図書室に掲げている色紙の額を、久しぶりに目にしたからです。そこに認められているのは『強くやさしく男の子』『やさしく強く女の子』という言葉。色紙の書と落款は廣介です。

廣介。浜田廣介は、「りゅうの目のなみだ」や「泣いた赤おに」を代表作とする童話作家であり、日本のアンデルセンとも呼ばれています。その浜田廣介の遺した言葉を借りて、今回の標題としました。「強くやさしく」「やさしく強く」です。

ご存じのように、本校には教育の四つの柱があります。その一つが『強くたくましい子ども』です。強さとはやさしさ。やさしさとは強さ。廣介の想いは私どもが目指すところでもあり、今年もまた、子どもたちと共に取り組んでいきたいと思っています。そしてそのためにも、当たり前前の学校生活が当たり前前に続くことを願ってやみません。

最後になりましたが、本校の教育活動に対しまして、今年もご支援、ご協力をお願い申し上げ、巻頭言の結びとさせていただきます。

☆☆☆宗教委員会の活躍☆☆☆

宗教科 定方 一悦

昨年12月19日(木)に「クリスマス祝賀式」が行われました。4年生が演じるイエス・キリストの降誕劇を観て、その最後に、各クラスの代表が待降節の間に励んできたよい行いを記した実行表を、神様と幼いイエス様に捧げました。今回の祝賀式は、今年度初めて設立された宗教委員会の児童が中心となって、それぞれの役割を担いました。司会や聖書朗読、開会の言葉や閉会の言葉、ろうそくの点火、それぞれに希望した役割を一生懸命に果たしました。また、祝賀式前の3週にわたる待降節朝礼も、宗教委員会が担当しました。待降節朝礼では、1週目にシスター中本先生のお話を聞きました。2週目は募金の使われ方についてのユニセフのアニメーションを見ました。3週目は絵本の読み聞かせを行いました。どの週も、宗教委員会の児童は、限られた練習時間の中で集中して練習に取り組む、落ち着いた静かな雰囲気での集会を作り上げることができました。練習の中で、児童の熱意と意欲に驚かされることよくありました。練習の開始時刻を守り、朗読や司会の言葉も自主的に練習していました。また、練習や本番での態度からも、自分たちが集会を作り上げるのだという意気込みがひしひしと伝わってきました。子どもたちとともに作り上げた待降節、そして祝賀式でした。



宗教委員と4年生が心を一つにしてイエス様誕生の喜びを伝えました。

おめでとうございます

◎「ふくしまジュニアチャレンジ」
 テーマ『人口が減る地域を元気に』
 (6年生によるグループ参加)

アイデア部門

〈福島民報社賞〉「福へこグループ」

〈金賞〉「SSG 空き家バンク」

〈銀賞〉「フクシマの休日」

〈銅賞〉「福島応援4人団」

〈銅賞〉「福島温泉アピール委員会」

ご協力ありがとうございました

- ◇「資源回収(2回目…11/2実施)」の報告
 - ・総量・・・960kg (学校側担当：奥山)
- ◇学院祭「古本市」残部収益の報告
 - ・本博等での販売・・・計11,715円 (環境委員長 相良)

※皆さまのご協力に感謝いたします。
 今後ともよろしくお願いいたします。

お知らせとお願い

1. 募金活動について～宗教委員会～

- 第1回募金総額は、77,600円でした。ご協力ありがとうございました。
 - 第2回もよろしくお願い致します。
- 令和7年1月15日(水)、16日(木)

2. 書き損じはがきの回収協力～奉仕・環境委員会～

- 回収物：書き損じはがき
- 期間：令和7年1/14(火)～18(土)

3. パン価格改定について～たけだパンより～

- ・原材料等の価格高騰のため、3学期より各10円ずつの値上げとなります。
- したがいまして、校内で販売するパンの価格は、1個140円～200円となります。ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

幼稚園「さくらんぼクラス」開催について

0歳から入園前までの子どもたちが集い、園庭や室内遊具で、親子で自由に遊びます。

お知り合いの方に、ぜひお声かけください。

【1月開催日：予約制…各回10組程度】

- 期日…10日(金)・16日(木)・20日(月)・27日(月)・31日(金)

- 時間…10:00～12:00

※1回につき200円(保険込み)

ミニコラムNo.51

『やればできる経験』

養護担当：中村 恵理

小学生の頃の私の好きな教科は国語、苦手な教科は体育でした。国語というよりは読書が大好きで、よく図書室へ行って本を借りていました。今図書室へ行って、「あ、小学生の頃の私が好きそうな本だな」と手に取った本の貸し出しカードに自分の名前を見つけることもあります。当時、私が入っていた手話クラブも図書室で活動していたので、図書室は思い出のたくさん詰まった場所です。

空いた時間を見つけては、本ばかり読んでばかりいた小学生の私は、体を動かすこと、特に走ることも苦手でした。小学校6年間、一度も休まなかった私も、持久走の季節には学校を休みたくなることもありました。私が小学生の頃は『校内マラソン大会』があり、4年生以上の全員が参加していました。マラソン大会が近づくにつれて、「いやだな」という気持ちが大きくなり、家に帰ってその気持ちを母に泣きながら話したこともありました。ただ、そんなときに母は「休んでもいいよ」とは言わず、「ごはんを食べたら一緒に走ってみよう」と練習に連れ出してくれました。小学生の私も、どれだけ嫌だと思っても、泣いていても、「参加しない」ことは考えていませんでした。それは、どれだけ遅くても、かっこよくない走りでも、一生懸命応援してくれる友人、私と同じように走ることに苦手でも、一生懸命走っている友人がいたからです。そして、体育の先生や担任の先生が、走ることが苦手な私を認めた上で、できると信じ、励まし、声をかけ続けてくださったからです。マラソン大会が終了したあとは、「終わってよかった」というほっとした気持ちを抱くと共に、「嫌だったけれど頑張れた」という小さな自信も生まれました。と言いつつ、今でも持久力が必要なスポーツは苦手です。ですが、今もあの時の小さな自信が、困難な状況であっても「やればできるはず。きっと大丈夫。」と私の背中を押してくれています。



自分の心に負けず「今日も走る！」6年生の中村教諭